



ガソリン暫定税率の復活に賛成した与党議員たち。だが、彼らには「庶民がクルマを維持する苦しみ」がわかっているのだろうか？ そこで「政治家の金満カーライフ」を徹底調査。激怒の準備はOKか？

まずは総理大臣のクルマの秘密から！

5月1日からガソリン税の暫定税率が復活。原油調達価格の高騰と合わせて、1リッターで30円近く上昇した。「日本人はホントにおとなしい国民だね」。こんなバカげた増税をされたら、外国だったら大規模なデモが起きて大変なことになってるよ(笑)。

そう語るのは永田町取材歴40年のフオトジャーナリスト・堀田尚氏だ。確かに、暫定税率復活を目前に国民が見せた抵抗といえは、何十分も並んで駆け込みで安いガソリンを給油したぐらいのものだった。

そこで週プレは疑問に思った。「オレたちがこんなに苦勞してクルマを維持している一方で、ガソリン増税に賛成するなんて、議員センセイたち



麻生太郎議員はアウディの後部座席でニコリ



ハマーをブイブイならせるのは、馳浩議員



中川昭一議員のアルファード。後部座席は広々

はいったいどんなカーライフを送っているのか？ もしや、この人たちはガソリン値上げなど、全然、自らの痛みとして感じていないのではないのか？」

そして徹底的に調べてみたのが、この「政治家のカーライフ」特集だ。

まずは、この国で一番エライ人・内閣総理大臣が乗る総理大臣公用車について。あれはトヨタのセンチュリー。クルマの価格はいくらで、誰の持ち物なのか？ それを内閣府・会計課に問い合わせると、こんな答えが返ってきた。

「総理大臣公用車に関しては、セキュ

▶永田町にズラリと並び、政治家の黒塗り高級車。運転手はヒマそうに待機しているが...

◀グンガン上がるガソリンの値段。でも、政治家で細かな価格を気にしている人は少ない

リテイ上の関係でほとんどのことはお答えできません」

仕方がないので調べると、価格はノーマル状態で1台1千万円以上。当然、オレたちの税金で購入されている。ではガソリン代や高速代、車検代などは誰の負担で、年間経費はいくら？

「内閣官房の予算で負担しています。が、年間の経費はお答えできません」

ちなみに、燃費はどれくらい？

「お答えするのは難しいです(笑)」

要するに、ガソリン価格が上がるうが福田総理の財布は痛まないということだ。このクルマに関しては、前出・堀田氏がこんな裏話を教えてくれた。

「総理公用車は、オレが知っているだけで3台あるんだよね。2台が現行のセンチュリーで1台は旧モデル。それで、総理が地方に行く時は、公用車を

トラックに乗せて先回りして運んで、現地に配置したりするんだよ」

仰天！ 総理が行く先々で常にセンチュリーに乗るお姿を見かける謎には、こういう背景があったのだ。でも、トラックで運ぶその軽油代も、当然、税金から支払われているんだよね。

「黒塗り」の多くは税金で運営されている

総理大臣に限らず、政治家センセイの多くはドでかい黒塗りの高級車を秘書に運転させて、後部座席でふんぞり返っているモノ。

続けて、永田町のカーローラ「とも」に押さされるこの「黒塗り」は誰の持ち物で、どう利用されているのかを調査。

実は衆議院、参議院はそれぞれ公用車を所有している、国会議員は公務

**怒れ、全国民！
徹底取材！！**

政治家たちの

豪華カーライフ

ガソリン増税に苦しむ庶民の気持ちには絶対わからない！

黒塗りの後部座席にふんぞり返っていたら、



徹底取材!! 政治家たちの「豪華カーライフ」

「国会の近所に、トヨタの伝説のディラーがあるんだよ。そこはアフターサービスが圧倒的にいいの有名。この前、自民党の河村建夫衆議院議員がレクサスLS600hLのボディにガリガリ大きな傷をつけたんだけど、そのディラーがすっ飛んできてたつた3日で完全に傷を消していた。JAFより早まって評判なんだ(笑)」(堀田氏)

そんなクルマを運転する秘書にも、驚愕のエピソードがある。

「政治家は運転手の人使いがホント荒

いんだ。もう引退した武蔵野文・元外務大臣は、昔、運転手に「急げ、急げ」とあまりにうるさかったから、秘書が首都高速を運転中にキレた。それでクルマを路肩に停めて、その秘書、議員をクルマに残して首都高の非常用ハシゴから下りてどっか行っちゃったんだ(笑)」(前出・全国紙記者)

一方で、後部座席にふんぞり返らずに、なぜか助手席に座りたがる議員もいるという。

「代表的なのはハマコー元議員や粕谷茂元議員。現職では稲葉大和衆議院議員。淋しがり屋なのか、運転手とずーっとしゃべってるんだって」(堀田氏)

官僚も黒塗りをこ愛用。 驕りを見せる秘書たち

永田町を走り回る「黒塗り」に乗っているのは、実は政治家だけではない。お役人様もたくさん乗って、その思慮にあずかっているのだ。そこで、一例として国土交通省の官僚たちが利用す

るクルマについても述べておこう。

民主党の「ガソリン値下げ隊」隊長・川内博史衆議院議員が国交省から入手した資料によると、国交省は全国の8地方整備局などに公用車を1426台所有。そして公用車と工事用車両の運転手代や維持管理費などの委託費として、平成18年度だけで道路特定財源から計81億9764万9940円を支出しているという。川内議員が解説する。

「この車両管理業務を請け負っている会社には国交省から多くの職員が天下っている。上位3社だけで55人です」

川内議員が入手した資料をよく見ると、国交省からの天下りを受け入れている「受注額10位以内の7社」が全体の約93%を受注していた。大半が指名競争入札だが、「天下りを受け入れるといいことがあるんだな」と思わせる数字だ。もちろん、そうした企業に流れているお金も道路特定財源という税金。

「永田町の議員以上に、役人連中はやりたい放題しています。今、この暗部にメスを入れないと取り返しのつかないことになります」(川内議員)

では、永田町や霞が関で庶民の代弁者を採るのは難しいのだろうか？

「難しい。特に永田町の連中は、2世、

3世議員が多くなりすぎて庶民の暮らしかわらないんだろうな。」

とにかく今、政治家の感覚は一般人と完全にズレている。例えば、参議院議員会館から100m先の自民党本部に行くだけでも、自民党議員の多くはクルマを使うんだから。永田町で道を歩いているのは、生真面目な柴山昌彦衆議院議員や、奥さんが自己破産してお金がない小杉隆衆議院議員くらい。でも、そういう議員はごく少数」(堀田氏)

かつて公用車の割り当てを拒否した民主党の河村たかし衆議院議員の事務所によると、こんな答えが返ってきた。

「公共交通機関で移動したほうが便利だから、国会事務所ではクルマを持っていないんですわ。なくても十分」(河村たかし事務所)

議員会館の横には、政治家のセンスイ方の駐車場がある。そこに数多く並ぶ「黒塗り」。ところがそのスキマに1台だけ、長い間停められたままでホコリをかぶった白のブルーバードがある。庶民的、かつ、議員秘書たちの間で「あれはいいんだな」と都市伝説となっているクルマだ。

調査の結果、持ち主は自民党の河野太郎衆議院議員と判明。河野議員ならガソリン増税で庶民が感じる痛みをわか

▶石原伸晃議員はクルーガー・ハイブリッド「チームマイナス6%」ステッカーが目印



の際にこれを使うことができるのだ。

「現在、衆議院には議員が使用できる公用車が100台あります。車種は「クラウン」「マイルドハイブリッド」で、購入費は1台につき約300万円。使用年数は原則7年間

で、車種の選定は政府の「環境物品等の調達に関する基本方針」に基づくとともに、議員の公務での乗用にふさわしいという条件で入札しています。台数は会派(政党)ごとに割り当てていますが、内訳は非公表。議員の人数に応じてお考えいただければと思います」(衆議院広報課)

つまり、衆議院で多数を誇る与党に

より多くのクルマが割り当てられているというのだ。維持費については、「ガソリン代は、全台数で1年間で約3200万円。これは衆議院事務局、つまり、国が負担しています」

参議院もほぼ同様のシステム。正副議長と各委員会の委員長に1台ずつ公用車が割り当てられ、残りは会派の数に応じて配分されるという。

「参議院の公用車は合計100台。内訳は普通車(3ナンバー)41台、小型車(5ナンバー)64台で、1台あたりの購入

価格は約300万円。公用車の運転手88名は参議院の職員。ガソリン代、高速代、車検代、定期点検代にかかる経費は年間約3500万円。参議院の予算で賄います」(参議院広報課)

そして議会からのこうした公用車とは別に、各省庁にも大臣や副大臣のための公用車がある。例えば、今、話題の溝中にある国土交通省の場合。

「現職の国土交通大臣、副大臣(2名)及び大臣政務官(3名)が公務の円滑な遂行を図るために公用車を使用しています。これら6台は低公害車(セダンタイプ)で、平成14年式が5台、平成17年式が1台。大臣がセンチュリーで、あとはクラウン。公用車のガソリン代及び車検代などの合計は平成19年度で約200万円。国で負担しています」(国土交通省大臣官房秘書室)

つまり、多くの「黒塗り」は税金で運営されているのだ。

しかし、こうして提供される公用車を使わずに、自分のクルマを使う政治家も多い。前出・堀田氏が証言する。

「麻生太郎衆議院議員は自分のアウディA4クワトロに乗っているね。プロレスラー出身の自民党・豊洲衆議院議員はハマー。民主党の松本謙公衆議院議員はフェラーリを持っていた。クルマを一番たくさん持っているのは資産公開ランキング上位の常連、自民党の笹川豊衆議院議員。議員長かな。メインは白のレクサスLS600hLで、白いロール

スロイスもある。地元で使うのは黒のセンチュリー。笹川さんに「持っているクルマは8台ですか？」と聞いたら「うちちょっとあるかな」だって」

高速道路上で、傲慢な議員にブツキレた秘書

こうしたお金持ち系議員の流れとは別に、最近、センセイの間で増えているのがハイブリッド車だ。

「環境」が売りの小池百合子衆議院議員が乗っているように、今人気なのはプリウス。アルファードも増えている。昔は政治家のクルマといえばセンチュリーやベンツが多かったけど、政治家の最近の憧れは高級ハイブリッドのレクサスLS600hLだ(堀田氏)

ただ、このハイブリッド車の運転には気を遣うらしいと堀田氏は続ける。

「乗っている議員がこぼやくんだ。低速だとエンジン音がしないから、クルマが近づいているのに人が気づいてくれない。でも、いくら邪魔でも絶対にクラクションを鳴らせないんだ。もしも鳴らしたら「あいつはエラそうだ」と言われて票が減るからって(笑)」

政治家のクルマと選挙区の関係も面白い。例えば、スズキのお隣元・浜松が選挙区の片山つき衆議院議員は、スズキに乗っているかというところではなくて、愛車はトヨタのクラウン。

「スズキの鈴木修会長は、片山さんのライバルの城内実氏の支援を固めてい

るといわれる。それに対する反発なのかもね」(全国紙政治部記者)

甘利明経済産業大臣の公用車はレクサスLS600hL。

「でも、「本当はトヨタ車に乗りたくないし、トヨタ車では地元で売れない」とこぼしていたよ。なぜなら甘利大臣の選挙区は神奈川の座間。日産の大工場があった街。選挙では日産関係者の票がカギだから、地元で使う私有車は日産車なんだ」(経済誌記者)

民主党の小沢一郎代表は別のこだわりを見せているという。

「小沢代表が乗っているのはハイブリッド4駆のアルファードG。自分のカネで買ったもので1千万円近い。でも、昔、一度だけスズキ・カルタスに乗って現れたことがあった。驚いて理由を聞いたら「これは秘書のクルマで、いつもの故障したから」って



▶民主党「ガソリン値下げ隊」がコブシを挙げる。聴衆は拍手喝采

徹底取材!! 政治家たちの「豪華カーライフ」

つてくれるだろうか?

「議員本人はふだんは地下鉄と電車と徒歩で移動するから、めったにあのクルマには乗っていない。だからホコリをかぶっちゃってさ(笑)。黒塗りは必要ないですね」(河野太郎事務所)

議員の意識も問題だが、議員センセイの権威を利用して騙っている秘書たちにも問題があると堀田氏が憤る。

「秘書連中に話を聞くと、ガソリンを国会近くのバカ高いスタンドで入れているんだという(ちなみに、あるスタンドは高級車に入れるハイオクだどリッター180円)。しかも、ガソリンの値段がいくらか知ってるのかと聞くと、こう答える。「知らない。伝票が後で事務所にくるだけだから。でも、自分のカネなら絶対にここでは入れない。安いスタンドで入れる」と。こんなムダ遣いを恥じない態度の秘書が国民の痛みを感じてはさすがないし、秘書がガソリンの値段を知らないんだから議員自身も当然知るはずがない。

自民党のベテラン衆院議員の政策秘書で、港区に住みベントウコンプレッサーに乗っている人間がこう話した。

「暫定税率復活前夜にスタンドに行ったら2、3台並んでいたから給油するのをやめた。翌日から1リッターあたり35円値上がりしても、35円×40で1400円上がるだけだから、まあいいや」って。「1400円なら庶民は3回メシが食えるだろ」と怒ったら、「あっ、すいません」だって。つまり、彼らは庶民の感覚がわかってないんだ」ちなみに、国会議員には歳費とは別に、毎月100万円もの「文書通信交通滞在費」が支給されている。

発見! 軽自動車に乗ってる国会議員!!

「政治家のカーライフ」を知らば知るほど、庶民の痛みを感じていない驕った姿が浮かび上がってくる。でも、そんななかでも心あるセンセイはいないのだろうか…。

いた。庶民的なエピソードを披露するのが民主党の村井宗明衆院議員。

「30歳で初当選した時は、緑色のマツダ・デミオに乗ってました。自分でそれを運転して国会議員の集会に行ったら、警備の人に議員だと信じてもらえなくて「ここは来賓用の駐車場、あっち行って!」と怒られました。ちなみに、今乗っているクルマはイブサム。

政府・与党は税金を上げる前にムダ遣いをなくするのが先。道路関係の天下り法人だけで57もある。そのムダをなくせば暫定税率を廃止しても全然困らない。今、日本では年間1万4千社が倒産していますが、売上げ自体は下がっていない。ガソリンなどの支出が増えて倒産している。ハッキリ言って「ガソリン不況」です」(村井議員)

さらに調べていくと、もっと庶民的なクルマに乗っている議員がいた。なんと、軽自動車ユーザーだ!

「私は7年前に買ったダイハツのミラ・ジーノを自分で運転しています。もうこのクルマで9万km走りました」

そう語るのは民主党の藤田幸久参院議員。でも、珍しいですよよね?

「議員会館の駐車場には高級車が多いから、軽自動車は肩身が狭い。秘書たちも

いいクルマに乗ってますしね。でも、自分はNGOの出身で黒塗りはガラじやありませんから。暫定税率が復活した上、ガソリン価格も上がり、国民の負担感は大きい。私もその痛みはヒリヒリと感じています」(藤田議員)

それでは現実問題として、ガソリン税の暫定税率を再び廃止する方法はないのだろうか? 前出・ガソリン値下げ隊の川内議員が、その策をこう話す。

「私たちはあきらめていません。民主党が政権を取れば、直ちに『暫定税率廃止法案』を通して本則の税率に戻します。ガソリン税をはじめとする道路特定財源の問題は、国のムダ遣いを見直すことにもつながります。国を根本から変える絶好のチャンスなんです。

私のプライベート用のクルマはクラウンですが、8年前に中古で買って、現在15年目に入ったモノ。走行距離は30万kmで諸経費はもちろん自分持ち。それを走らせて国民に訴え続けます」

5月13日には、与党が道路特定財源を10年間延長する法案を衆議院で再可決する予定だ。与党議員に好き放題にはさせないぞ! 怒れ、国民よ!



▶国会議員では珍しい軽ユーザー・藤田幸久議員。でも、「選挙区の茨城を走り回ると尻が痛くなる」とも